

夏のお楽しみ会

今年「子ども防災アカデミーin小野」に寺子屋の12名のお友達が参加しました。
※特定非営利活動法人ワカモノジカラプロジェクトと商店街の寺子屋の共催事業です



【毛布担架で運ばれるところ】

寺子屋の日常



小野 小野市上本町のコミュニティセンターの分館「よって吉蔵」の寺子屋で学ぶ小学生13人が24日、同分館とコミュニティセンターの(三子町)で、災害発生時の心構えや三角巾を使った止血法などを学んだ。寺子屋の運営委員会(宮脇京子代表)が「子ども防災アカデミー」と題し、NPO法人「ワカモノジカラプロジェクト」(姫路市)を招いて開いた。同プロジェクトは東日本大震災以降、関西の大学生が被災地支援を目的に集まり、被災活動を続けている。この日は兵庫などの大学に通う学生8人が講師役として参加した。児童たちは地震や津波が発生したとき、頭を守ることや走って逃げることを学んだ。懐中電灯やラジオなど非常時に持ち出すべき60

防災の知識を小学生ら学ぶ
非常食の試食など



品の中から6品を選び、その使い道も検討。避難所で行列を避けるため「簡易トイレ」を持って行くことを決めた小野小6年専多通都君(11)は「何をもち出すか悩んだ。いざというときに備えて事前にしっかりと決めておきたい」と話した。子どもたちはお湯を注いで15分で食べることができ、アルファ化米も試食。同プロジェクト代表で小野市出身の神戸学院大3年横山拓也さん(20)「神戸市中央

神戸新聞 8/25日 ①
に載ったよ!